

# 鉄鋼概況

## 12月輸出 過去最高を更新

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

12月の粗鋼生産は前年同月比2.0%増、1日当たりの生産量は前月比2.5%減となった。12月の輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比24.0%増の384万トンで12月としては過去最高となった。経済産業省発表の2012年1~3月期の粗鋼生産量見通しは前期見込み比0.2%増で3四半期ぶりに増加し、これを織り込んだ2012年度の粗鋼生産量は1億685万トンと3年連続で1億トンを超える見通しである。12月の世界（62カ国）粗鋼生産は、前月比0.6%減で2カ月連続して減少し、製鋼操業率は73.2%と前月比では2.9ポイント、前年同月比では0.3ポイント低下した。2012年の世界粗鋼生産は、前年比1.2%増の15億4,780万トンで3年連続で過去最高を更新した。

※※※

### ◆2012年粗鋼生産、1億723万トン

鉄鋼連盟が発表した11月末の普通鋼鋼材国内在庫（メーカー・問屋在庫）は、前月末比10万9,000トン、2.0%減の542万8,000トンとなり、2カ月連続で減少した。しかし、11月の出荷量が減少したために、国内在庫率は前月末比3.0ポイント上昇して142.0%となった。一方、普通鋼鋼材の11月末の流通在庫は、鉄連が行なった全国市中鋼材数量調査によると、前月末比1.5%減（前年同月比3.2%減）の266万4,000トンとなり、4カ月ぶりの減少となった。11月の販売量が1.2%減の261万5,000トンとなり、その結果在庫率は前月末比0.3ポイント低下し101.9%となり、24カ月連続しての100%超えとなっている。

主要製品の在庫状況を見てみると、11月末の薄板3品（熱延・冷延・表面処理鋼板）の国内在庫（メーカー・問屋・コイルセンターの合計）は前月末比12万9,000トン、3.2%減の394万2,000トンとなり、4カ月ぶりに400万トンを下回った。メーカーの減産効果に加えて、需要も建築関連の荷動きが上向いてきたほか、自動車も輸出向け生産が上向く兆しが出てきたことも影響している。主要建材製品であるH形鋼の12月末の流通在庫は、新日鉄住金系の建材特約店組織である「ときわ会」のまとめによると、前月末比4,100トン、2.2%減の17万8,800トンと3カ月ぶりに17万トン台になった。在庫率は前月末比0.04ポイントアップの1.95カ月で、新日鉄住金では「適正水準にはもう一步」との認識をもっている。

鉄鋼連盟が発表した2011年12月の粗鋼生産は、前年同月比2.0%増の866万6,000トンとなった。円高修正などで鋼材輸出が増加したことなどから4カ月ぶりに前年同月実績を上回ったが、1日当たりの生産量は前月比2.5%減の27万6,400トンとなった。炉別生産では転炉鋼が前年同月比5.9%増の670万トンと2カ月連続の増となり、電炉鋼は同10.0%減の187万トンと5カ月連続の減となった。

2012年暦年（1~12月）の国内生産量は、前年比0.3%減の1億723万5,000トンとなり、3年連続で1億トン台を維持したが、鋼材需要が下期に入り、減速した影響もあって前年実績（1億760万トン）をわずかに下回った。2012年の炉別生産をみると、転炉鋼は8,231

万トンで前年比 0.5%減となり、電炉鋼は 2,493 万トンと同 0.3%増で、電炉鋼比率は 23.2%と前年に比しわずかに上昇した。鋼種別には普通鋼が前年比横這いの 8,324 万トン、特殊鋼は同 1.6%減の 2,400 万トンとなった。

財務省が発表した 12 月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比 24.0%増の 384 万トンとなり、12 月としては 2009 年の 381 万トンを超え過去最高となった。9 月以降海外市況が底入れしたことや商権開拓が進んでいる熱延コイルなどの輸出成約が高水準だったことが影響している。また、前年にタイの洪水影響で輸出減となった反動もあり、前年比で大きく伸びた。

一方、輸入は同 13.9%減の 61 万 9,000 トンと 3 カ月連続で減少した。12 月の地域別輸出は、ASEAN 向けが 120 万 4,000 トン（前年同月比 42.6%増）と 8 カ月連続の増となり、アジア NIE's 向けは 106 万 7,000 トン（同 17.4%増）と 2 カ月連続の増、中国向けは 48 万 2,000 トン（同 4.3%増）と 5 カ月ぶりに増加に転じた。その他地域では中東向けが 22 万 1,000 トン（同 54.9%増）と 5 月以来となる 20 万トン台に達した。米国向けは 18 万トン（同 4.4%増）で、再び増加に転じた。12 月の地域別輸入は、NIE's からは 39 万 7,000 トン（同 12.4%減）、中国からは 9 万トン（同 21.3%減）となった。

このような 12 月の輸出入実績の結果、2012 年暦年の鉄鋼貿易統計は全鉄鋼輸出は前年比 3.1%増の 4,210 万 9,000 トンと 3 年連続して 4,000 万トンを超え、全鉄鋼輸入は同 3.4%減の 770 万 7,000 トンと 3 年ぶりに減少した。2012 年の地域別輸出は、アジア向けは前年比 0.9%増の 3,324 万 7,000 トンで、このうち尖閣問題などで対日関係が悪化した中国向けは同 11.7%減の 601 万 4,000 トンに止まった。NIE's 向けは韓国の鉄源自給化などが響き 5.0%減 1,290 万 1,000 トンとなった。一方、ASEAN 向けは自動車生産の増加などから 13.9%増の 1,276 万 6,000 トンと過去最高を記録した。また、米国向けは 22.0%増の 235 万 9,000 トン、中東向けは 34.7%増の 197 万とそれぞれ大きく伸びた。2012 年の輸入の内訳はアジアからが前年比 1.4%増の 639 万 2,000 トンとなり、このうち NIE's からが 6.4%増の 481 万 7,000 トン、中国からが 6.5%減の 123 万 9,000 トン、ASEAN からが 39.9%減の 11 万トンとなっている。その他地域ではロシアからが 28.8%減の 20 万 3,000 トン、EU からが 5.2%増の 13 万 7,000 トンとなっている。

### ◆1～3 月粗鋼需要見通し、2,607 万トン

経済産業省が発表した 2012 年度第 4 四半期（1～3 月）の需要相当の粗鋼生産量見通しは、前期見込み比 0.2%増の 2,607 万トンと 3 四半期ぶりに増加する。鋼材需要の見通しは普通鋼が 1,874 万トン（前期比 0.6%減）、特殊鋼が 461 万トン（同 7.4%増）で合計 2,335 万トン（同 0.9%増）となる。普通鋼鋼材のうち国内需要は同 2.5%減の 1,189 万トンとなった。公共土木需要は期ずれの影響で 8.8%減、民間土木は 18.8%増となり、土木向けは合計 165 万トンと 2.3%減少する。住宅建築は季節要因で 6.5%減、非住宅も 8.9%減となり建築向けは合計 323 万トンと 7.8%減る。その結果、建設全体で 488 万トンと 6.0%減となる。製造業向け内需は、自動車エコカー補助金終了や日中関係悪化によって落ち込んだ前期に比して 3.2%増の 281 万トンとなり、造船は同 3.3%減の 101 万トン、産業機械は 3.0%減の 117 万トン、電気機械が 5.3%増の 78 万トンとなって、合計では同 0.2%増の 701 万トンと見通している。普通鋼鋼材の輸出は、円高修正がプラスに働き、前期比 2.9%増の 685 万トンと 2 四半期ぶりに増加する見込みである。

この需要見通しを織り込んだ 2012 年度の粗鋼生産量は 1 億 685 万トンとなり、前年度（1 億 646 万トン）を若干上回り、3 年連続して 1 億トンを超える見通しとなっている。

## ◆2012年世界粗鋼生産，最高更新

世界鉄鋼協会（WSA）が発表した12月の世界（62カ国）粗鋼生産は、前月比0.6%減の1億2,129万3,000トンと2カ月連続して減少した（前年同月比では2.4%増）。12月の製鋼操業率は73.2%と前月比では2.9ポイント、前年同月比では0.3ポイント低下した。12月の日産量は62カ国で前月比3.8%減、中国は2.9%減、中国以外は4.5%減と2カ月ぶりに減少した。主要国の日産量をみると、新興工業国では韓国が前月比0.3%減と2カ月ぶりに減り、インドも0.2%減と5カ月ぶりに減少、ブラジルも11.4%減と2カ月連続で減少した。先進国ではEU27が14.8%減と3カ月連続で減少し、北米は2.6%増と2カ月連続で増え、日本は2.5%減と6カ月連続で減少した。

表1 世界粗鋼生産

(単位:千トン,%, 出所:世界鉄鋼協会)

	12年12月	前年同月比	前月比	2012年	前年比
フランス	972	(△12.5)	(△23.6)	15,607	(△1.1)
ドイツ	3,064	( 1.4)	(△11.6)	42,661	(△3.7)
イタリア	1,699	(△16.3)	(△24.7)	27,227	(△5.2)
スペイン	806	(△1.5)	(△23.6)	13,628	(△12.1)
イギリス	824	( 23.6)	( 1.8)	9,756	( 2.9)
<b>EU27カ国計</b>	<b>11,975</b>	<b>(△2.6)</b>	<b>(△11.9)</b>	<b>169,367</b>	<b>(△4.7)</b>
トルコ	2,845	(△8.6)	(△4.9)	35,885	( 5.2)
<b>他欧州計</b>	<b>2,991</b>	<b>(△9.9)</b>	<b>(△4.8)</b>	<b>37,862</b>	<b>( 1.9)</b>
ロシア	5,788	(△3.5)	( 3.6)	70,608	( 2.5)
ウクライナ	2,532	(△9.7)	(△7.6)	32,911	(△6.9)
<b>C I S計</b>	<b>8,925</b>	<b>(△5.3)</b>	<b>( 0.2)</b>	<b>111,179</b>	<b>(△1.2)</b>
カナダ	1,200	( 14.9)	( 7.1)	13,730	( 5.9)
メキシコ	1,700	( 10.1)	( 13.3)	18,180	( 0.4)
アメリカ	7,074	(△5.5)	( 4.4)	88,598	( 2.5)
<b>北米計</b>	<b>10,087</b>	<b>(△1.0)</b>	<b>( 6.1)</b>	<b>121,872</b>	<b>( 2.5)</b>
ブラジル	2,604	(△2.6)	(△8.4)	34,682	(△1.5)
<b>南米計</b>	<b>3,603</b>	<b>(△3.2)</b>	<b>(△7.0)</b>	<b>46,929</b>	<b>(△3.0)</b>
<b>アフリカ・中東計</b>	<b>2,857</b>	<b>(△0.7)</b>	<b>( 1.7)</b>	<b>34,453</b>	<b>( 2.2)</b>
中国	57,656	( 7.7)	( 0.3)	716,542	( 3.1)
インド	6,600	( 4.8)	( 3.1)	76,720	( 4.3)
日本	8,569	( 2.0)	( 0.7)	107,235	(△0.3)
韓国	5,811	(△3.4)	( 3.0)	69,321	( 1.2)
台湾	1,770	(△6.4)	( 6.3)	20,660	( 2.4)
<b>アジア計</b>	<b>80,406</b>	<b>( 5.6)</b>	<b>( 0.9)</b>	<b>990,477</b>	<b>( 2.7)</b>
<b>オセアニア計</b>	<b>450</b>	<b>( 6.2)</b>	<b>(△4.8)</b>	<b>5,805</b>	<b>(△19.9)</b>
<b>64カ国計</b>	<b>121,293</b>	<b>( 2.4)</b>	<b>(△0.6)</b>	<b>1,517,945</b>	<b>( 1.2)</b>
<b>*中国以外</b>	<b>63,637</b>	<b>(△1.9)</b>	<b>(△1.4)</b>	<b>801,403</b>	<b>(△0.5)</b>
<b>世界計</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>	<b>1,547,800</b>	<b>( 1.2)</b>

2012年の世界粗鋼生産は、前年比1.2%増の15億4,780万トン（2011年は15億1,469万トン）となり、3年連続で過去最高を更新した。うち46%を占めた中国の生産は同3.1%増の7億1,654万トンと過去最高となったが、2011年の前年比8.8%に比べると伸び率は縮小した。2012年は欧州の金融財政危機などを背景に鋼材の伸び悩みが表面化した。世界最大の生産国である中国の増産が続いたことで最高記録を更新した。アジアの新興国であるインドが同4.3%増（7,672万トン）、韓国が1.2%増（6,932万トン）、台湾が2.4%増（2,066万トン）と過去最高を更新するなど新興国が生産の伸びを牽引した。また、ロシアは2.5%増（7,061万トン）と2007年以来の7,000万トン台に乗せたほか、ブラジルは1.5%減（3,468万トン）と過去最高だった前年に次ぐ水準だった。先進国・地域では北米が2.5%増（1億2,187万トン）になった以外は、EU27が4.7%減（1億6,937万トン）と3年ぶりに減少し、日本も0.3%減（1億723万トン）と2年連続で減少するなど伸び悩んだ。国別の生産量をみると、中国に次いで日本、以下米国、インド、ロシアとなっており、上位5カ国の順位に変動はなかった。 □